

平成30年2月

学校教育自己診断について

学校教育自己診断実施時期：平成29年10月23日～11月24日

調査対象者：生徒 759名（1年274名、2年243名、3年242名）11月1日現在

保護者 759名（全校生徒数759名分）

教職員 91名

回収状況（回収率）：

生徒 694名（91.4%）1年229（83.6%）2年228（93.8%）3年237（97.9%）

〔昨年度 710名（89.9%）1年254（88.2%）2年250（92.3%）3年206（89.2%）〕

保護者 305名（40.2%）〔昨年度305名（38.6%）〕

教職員 46名（50.6%）〔昨年度89名（89.2%）〕

診断結果分析

肯定的な意見（①よくあてはまる、②ややあてはまる）と否定的な意見（③あまりあてはまらない、④まったくあてはまらない）に分けて分析を進めた。生徒・保護者ともに回収率が上がっており、本校教育に関して興味を持って見ていただけていると感じている。

1. 生徒

- ・全体としては肯定的な意見が増加しており、昨年度よりさらに増加している。（H27年度66.8%、H28年度67.6%⇒H29年度73.4%）
- ・どの学年においても肯定的な意見が7割を超えた。（1年73.3%、2年71.2%、3年75.6%）
- ・「授業はわかりやすく行われている」「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」の評価についての肯定的な評価が増えており、少人数授業等、授業に対する学校の取組みの成果と思われる。
- ・「学校の施設は、授業や生活がしやすいように、整備されている」については、全体的には評価が上がっている。本校110周年の記念事業として、教室へのプロジェクタ配備等があり、授業への取り組みやすさもあるかと思われる。3年生で評価が下がるのは、教室の授業よりも専門の教室・施設での授業が増え、その施設での空調の問題等もあるかと思われる。毎年トイレについての意見があるが、女子トイレの改修はされたものの、男子トイレについては改修されていないので、その分の内容は指摘されている。
- ・「担任以外に相談できる先生がいる」については、学年進行で増加している。所属の系が決まり、教員との距離が近づいていると考えられる。

2. 保護者

- ・全般的には、肯定的な意見が75%を維持できている。

3. 教員

- ・昨年度より、提出率が大幅に下がってしまった。